

情報サービス各社

RPAの導入進む

同時並行 社内実践を加速

情報サービス各社は、事務処理などをコンピュータで自動化するRPA（ロボティックプロセスオートメーション）の社内実践を加速するとともに、実践したノウハウの横展開を加速している。民間企業だけでなく自治体での導入も始まりつつあり、今後もしばらくRPAの導入事例は増えそうだ。

蓄積ノウハウを他社展開

RPAの導入が各業界で進んできている。少子高齢化、労働人口の減少が進む中、業界を問わず事務処理などを自動化し効率化を図る機運が高まっている。この数年で情報サービス各社はRPAの自社導入を進めており、一定の成果を上げつつある。

RPAはツールの導入だけでは成果が上がらない。業務の効率化を図りながら自動化を図るのが一般的で、BPR（業務プロセス改革）を同時に行うのが一般的だ。

数年来、情報サービス各社はRPAの社内導入を進め、この1年は実践により蓄積したノウハウを他社へも展開していく動きが出てきた。

NECネットワークスは、複数のRPAツールを活用し最適な業務の自動化を支援。アイティフォーはRPAの社内実践ノウハウを他社展開するとともに地方銀行向けに基幹システムと連携したRPAシステムを構築している。さらにRPAの導入拡大に向け教育講座を開設しユーザーが自らRPAを活用できるように支援していく。

日立システムズは日立グループのバックオフィス業務をRPAにより改善してきた。今年には自治体でのRPA導入を進めたほか、パナソニックソフトベンダーと協業し、RPAを組み合わせたシステム支援にも取り組む。日立ソリューションズは働き方改革の一環でRPAを活用。社内実践の成果を他社へも展開する。

富士通ソリューションサービスは、富士通ソリューションセンターが展開を進め、他部門への展開を進めるとともに、他社提案も進めていくという。富士通コミュニケーションセンターは富士通グループの営業部門のBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）の効率化を目指しRPAを導入し効率化を図っている。

現在、各部門でRPAの効果検証を始めた。JBCCホールディングスはAIやRPAの導入を本格化。RPAでは約6割の時間を削減した。日本システムウェアはECサービスのバックオフィス業務を自動化する目的でRPAを導入。ここでRPAを生かし業務プロセス改革の支援からツール選定まで総合的に行っている。今後はRPAで効率化し、業務にAIの判断を組み合わせた提案を進めていくという。

RPAの導入事例は、しばらく増えとみられる。

RPAの導入が各業界で進んできている。少子高齢化、労働人口の減少が進む中、業界を問わず事務処理などを自動化し効率化を図る機運が高まっている。この数年で情報サービス各社はRPAの自社導入を進めており、一定の成果を上げつつある。

RPAはツールの導入だけでは成果が上がらない。業務の効率化を図りながら自動化を図るのが一般的で、BPR（業務プロセス改革）を同時に行うのが一般的だ。

数年来、情報サービス各社はRPAの社内導入を進め、この1年は実践により蓄積したノウハウを他社へも展開していく動きが出てきた。

NECネットワークスは、複数のRPAツールを活用し最適な業務の自動化を支援。アイティフォーはRPAの社内実践ノウハウを他社展開するとともに地方銀行向けに基幹システムと連携したRPAシステムを構築している。さらにRPAの導入拡大に向け教育講座を開設しユーザーが自らRPAを活用できるように支援していく。

日立システムズは日立グループのバックオフィス業務をRPAにより改善してきた。今年には自治体でのRPA導入を進めたほか、パナソニックソフトベンダーと協業し、RPAを組み合わせたシステム支援にも取り組む。日立ソリューションズは働き方改革の一環でRPAを活用。社内実践の成果を他社へも展開する。

富士通ソリューションサービスは、富士通ソリューションセンターが展開を進め、他部門への展開を進めるとともに、他社提案も進めていくという。富士通コミュニケーションセンターは富士通グループの営業部門のBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）の効率化を目指しRPAを導入し効率化を図っている。

現在、各部門でRPAの効果検証を始めた。JBCCホールディングスはAIやRPAの導入を本格化。RPAでは約6割の時間を削減した。日本システムウェアはECサービスのバックオフィス業務を自動化する目的でRPAを導入。ここでRPAを生かし業務プロセス改革の支援からツール選定まで総合的に行っている。今後はRPAで効率化し、業務にAIの判断を組み合わせた提案を進めていくという。

RPAの導入事例は、しばらく増えとみられる。